



よし、  
なら  
問題ないな。



そういうえば  
従者の数に  
制限は  
あったか？



記載は  
ありま  
せんが、  
非礼の無い  
範囲であれば  
問題無いかと。



寛大なる  
皇帝陛下の  
温情に  
感謝しつつ、  
全員で  
向かうと  
しよう。



脱獄犯  
だから、  
別のルート  
から  
入るよ。



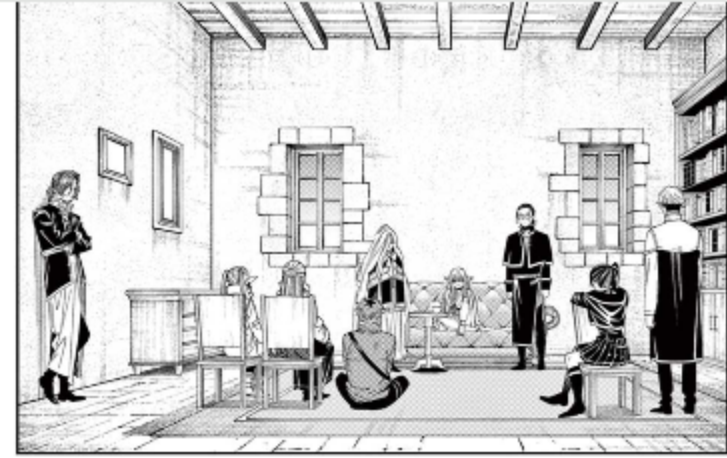
僕達はもう  
目を付けられ  
ている、



遊撃って  
どれだけ  
暴れて  
いいの？



わかって  
いる。  
こちらとしても  
遊撃できる  
チームが  
いたほうがいい。



「建國祭の  
舞踏会」の  
招待状は  
既に届く  
ところ。



私達の役割は  
国賓として  
招待された  
ゼーリエ様の  
護衛だ。



建國祭の  
最終日、  
いよいよ今夜  
宮殿で舞踏会が  
執り行われる。



舞踏会への  
潜入方法は？



影なる戦士による  
大魔法使い  
ゼーリエ暗殺計画、

その阻止が  
今回の任務の  
目標となる。



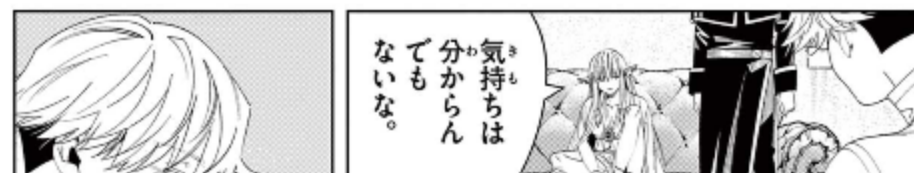
当然だが  
招待状が  
ある。  
正面から  
堂々と  
入れればいい。



私達が  
表立って  
動ければ、  
護衛の  
手段も  
増える。



そのつもりで  
準備しました。





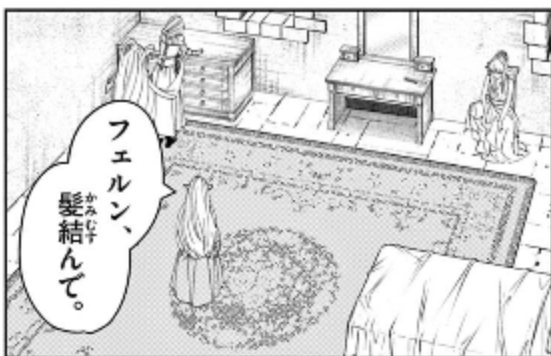
戦えなくなるから駄目。

ぎりぎりまで締めちゃってください。



今それどころじゃないって分かりませんか？

目が怖いって…

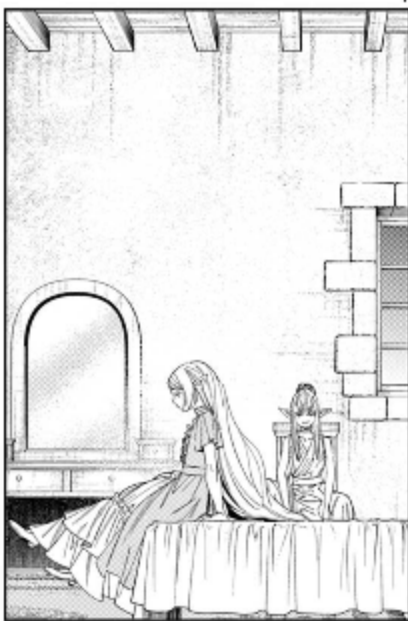


フェルン、髪結んで。



情けないなフリーレン、弟子がいなければ髪も結えないのか。

フリーレン、似たようなものでしょ。



ゼーリエだって似たようなものでしょ。



相変わらずこういう服って着慣れねえよな。



でもこれ動きやすいし、まだマシンなほうだと思っぜ。



…正装ね。まあ舞踏会に行くんだから当然か。



…サインだって不安だよな。

いきなりこんなことに巻き込まれちまってさ。



なあシユタルク、ずっと気になってることがあるんだが、さっきは話すような空気じゃなくてさ。



舞踏会って綺麗なお姉さんいるのかな？

それは今話す空気じゃねえな



俺で良ければ聞くよ。

登場人物



●フリーレン ●魔王を倒した勇者一行の魔法使い。エルフだから長生き。ドライ。魔法オタク。

●フリーレン ●僧侶・ハイターに育てられた魔法使い。フリーレンと共に旅をする。面倒見たリツッコんだり。一級魔法使い。



彼女は一級魔法使いだが、それ以前にお前の弟子だからな。



そもそもお前達の力など借りずとも、この暗殺計画自体が茶番であることくらいわかるだろう。



たとえ帝国が全軍勢力を集結させたとしても――



なんて私達を任務から遠ざけようとするの？



それだけ敬われてる。お前と違ってな。



死ね。死ねはしないで。



確かに巻き込む形になってしまったが、それはゼンゼが配慮した結果だ。



フリーレン、どうしても言うのであれば、私がお前の髪を結んでやった方がいい。



もちろんフェルンだって無理強いな。つもりは構わない！



私の意思じゃない。

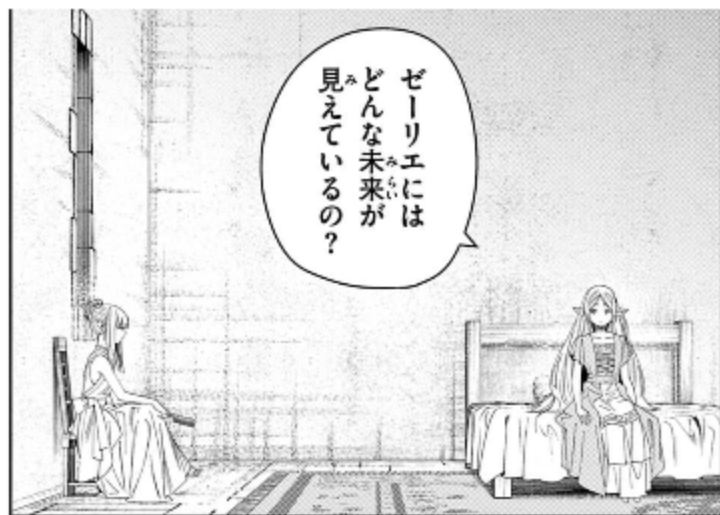
不満があるのな。任務を降りたって構わない！



髪を結んでやる。



フリーレン、来い。



ゼーリエにはどんな未来が見えているの？



ねえ、ゼーリエ。



私の役割は何？

●サイン●フリーレンに僧侶の才を見抜かれて一時間間。酒とタバコとキャンブルと年上のお姉さんが好き。



そうじゃない私はまだ…



フェルンにやって貰うからいい。



それに私のお前を巻き込んだのは、私の意思ではないと言っているだろう。



これは大陸魔法協会の問題だ。降りても降りても支障は無い。

●シユタルク●戦士・アイゼンに育てられた若き戦士。とてもとても臆病。でもそんなところが戦士の資質。



まさか、説得にこれ程時間が掛かるとは…



フリーレン様、終わりました。



お前を敬う大事な弟子が、

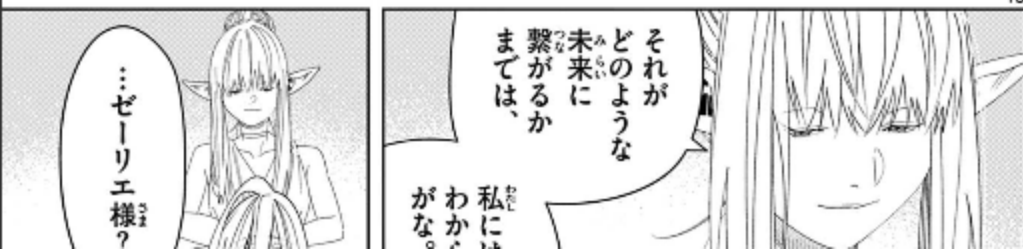
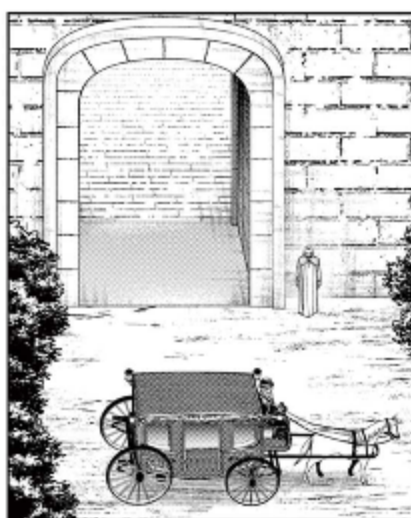
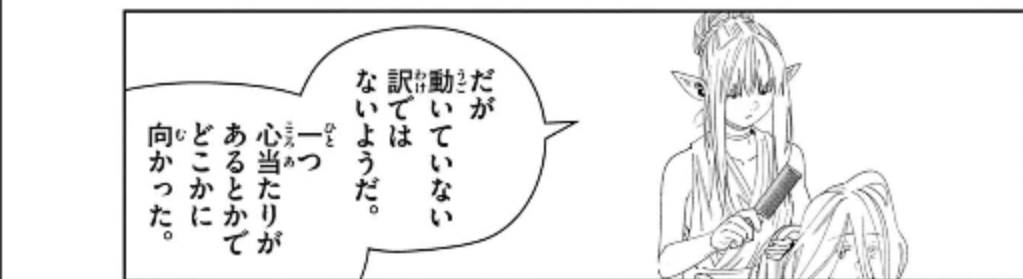


帝都に来たお前達をゼンゼが勝手に…



十全に戦えるよう調整しました

御苦



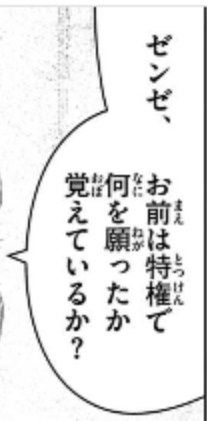
●ゼーリエ大陸魔法教会の創始者。大魔法使い。フリーレンの師匠であるフランメの師匠。偉そう。



話が逸れたな。



選定基準か…



ゼンゼ、お前は特権で何を願ったか覚えてるのか？

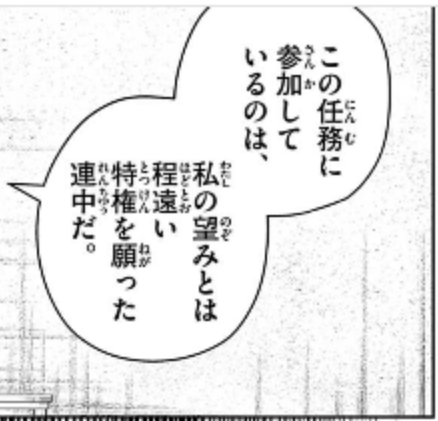


覚えています。

片時も忘れたことありません



私はあのときこの子には類い稀なる才はあれど、決して強い魔法使いにはなれないと。



この任務に参加しているのは、私の望みとは程遠い特権を願った連中だ。



家族の遺体を探す魔法。せめて吊りたいんだ。



私の欲しかった魔法は、取られちゃったみたいだねー。



じゃあ、いいや、姉貴が見つかる魔法。

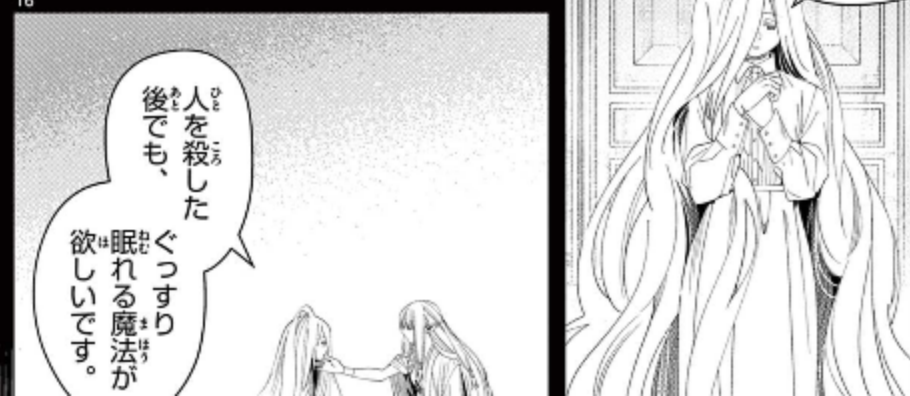
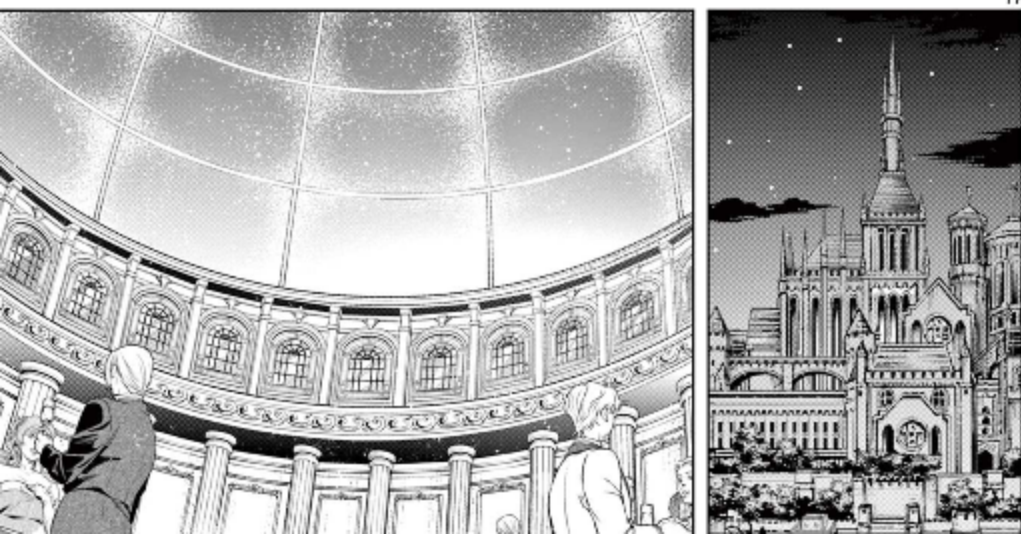


お洗濯の魔法ください。

正気かお前？

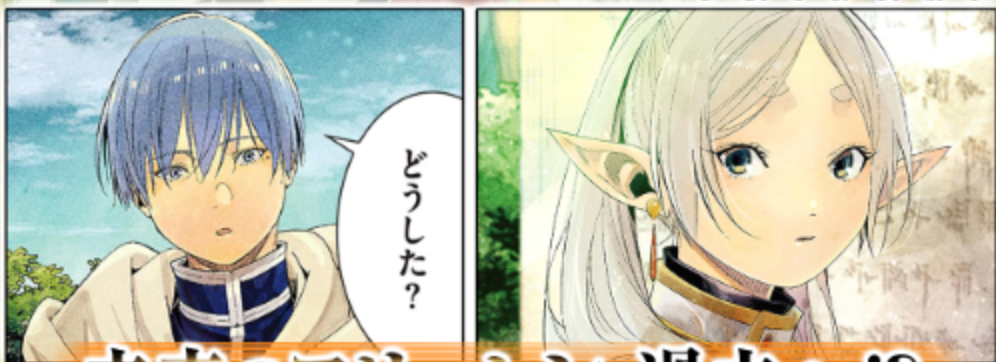


不思議なものだな。才ある両極端なんだ



振り返る

勇者が、生きている。葬送のフリーレン  
FRIEREN



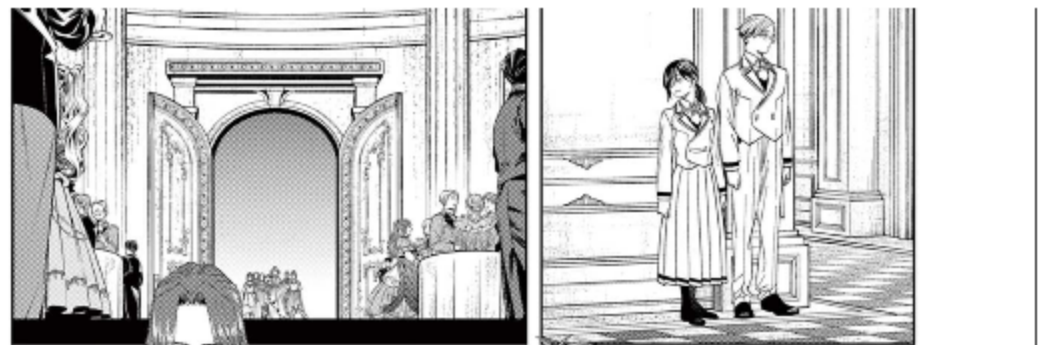
未来のフリーレン、過去へ!?

※チケット話を含む

最新話まで**全部無料**

で読むなら、**サンデーうぇぶり**【アプリ版】!

作品を読む



次号より休載です。18

■ 葬送のフリーレンが読める